

## 各論

## 産婦人科医と小児科医の連携のあり方

時田 章史\*1 黒澤 サト子\*2 峯 真人\*3

## はじめに

HTLV-1とはヒトT細胞白血病ウイルス1型(Human T-cell Leukemia Virus Type 1)の略である。このウイルスはT細胞に感染し、数十年を経て白血病を起こすウイルスとして1980年に発見されたが、ウイルス自体は古くから人類と共存し、我が国では縄文時代より前からHTLV-1の感染があったと考えられている。1990年に推定120万人、2006～2007年の調査で120万人、2015年の調査で82万人のキャリアがいると推定されている。2010～2011年にかけて、国、厚生労働省による、HTLV-1母子感染予防に関する特命チーム、研究班が発足し、感染予防対策、相談支援、医療体制の整備が正式にはじまった。

## HTLV-1母子感染対策

厚生労働省は、全国にHTLV-1母子感染対策協議会の設置を勧め、①スクリーニング検査体制の整備、②相談・カウンセリング体制の整備、③出生した児のフォローアップ体制の整備を行うことになった。

キャリアは九州、沖縄地方に多いことが知られ、その他四国の太平洋岸、紀伊半島海岸部、伊豆半島海岸部、東北地方の特に三陸海岸沿岸、北海道などが比較的多い地域として知られていたが、人口の大都市への移動、集中に伴い首都圏在住の比率が大き

ときた あきふみ, くろさわ さとこ, みね まひと

\*1 クリニックばんびい/日本・東京小児科医会公衆衛生委員会委員

〒108-0071 東京都港区白金台3-16-13 白金台ウスイビル5F

E-mail address : a.tokita@bambini.tokyo

\*2 くろさわ子ども&内科クリニック/東京小児科医会公衆衛生委員会委員長

\*3 峯小児科/日本小児科医会理事

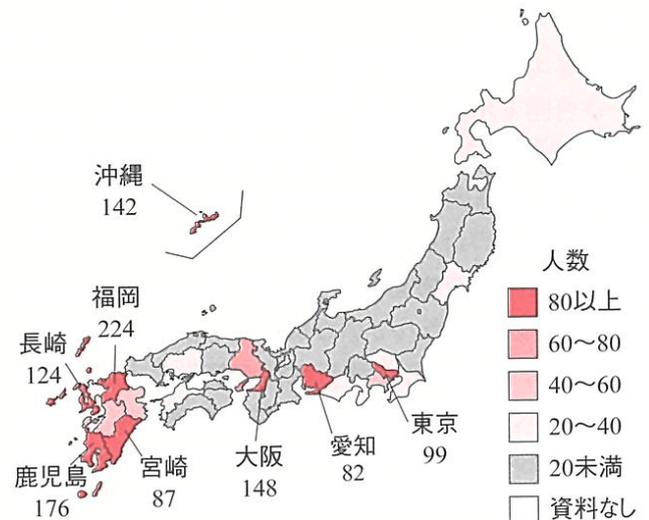


図1 妊婦健診で判明したHTLV-1感染者数、都道府県別推定値(2012年)

く増加している(図1)。

キャリアの多い地域において出産後もそのままその地域で生活する場合は、比較的①～③のフォローがしやすいが、里帰り出産後に都市圏で生活したり、都市圏で出産する場合は、その後のフォローアップが不十分になりがちである。

## 日本小児科医会の調査結果から

2014(平成26)年度に日本小児科医会は、全国の会員に対しHTLV-1母子感染予防に関するアンケート調査を実施した結果、HTLV-1に関する情報・経験が少なく、また疾病への認知度も地域によってかなり偏りがあることを報告した<sup>1)</sup>。

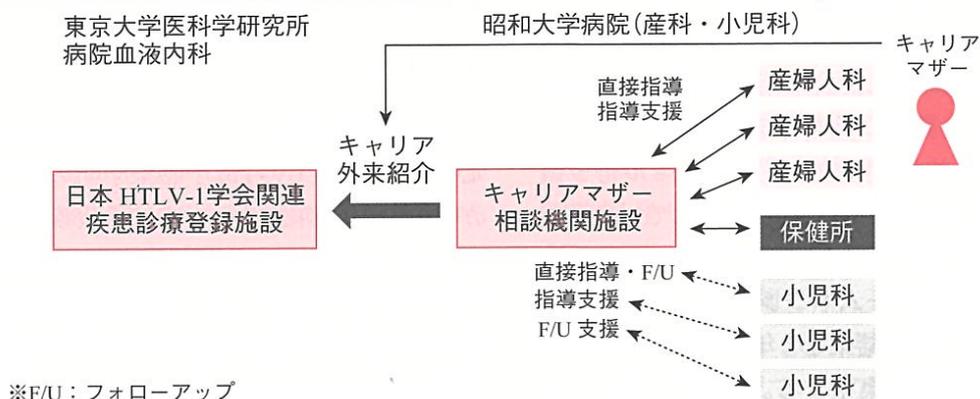
2015(平成27)年度、日本小児科医会と日本産婦人科医会が共同で各都道府県の会長宛に対策事業の取り組みについてアンケートを実施し、特に3歳児の抗体検査を開業小児科医で行う体制の整備状況、また、その後のフォローアップ体制の構築状況

## キャリアマザーに対する支援体制構築の試み (日本HTLV-1学会関連疾患診療登録施設との連携)

- ・どの施設・医療機関でもHTLV1キャリアに対応できるわけではない
- ・保健センターやHTLV-14母子感染対策協議会の機能が不十分
- ・“どこに相談をすればよいのかわからない”の意見が多い

産婦人科医会・小児科医会・保健所に周知

東京プロジェクト(平成31年度) … 研修・啓発活動も行う



※F/U：フォローアップ

**図2 HTLV-1母子感染予防東京ネットワーク**

についても調査した。その結果、東京都をはじめHTLV-1母子感染対策協議会がまだ設置されていない都道府県があり、またほぼ全例に行われている妊産婦健診でのHTLV-1抗体検査に関しても都道府県小児科医会の認識の低さが示され、また小児科、産婦人科の連携に課題を残す地域が多いことが明らかとなった<sup>2,3)</sup>。その一方で日本産婦人科医会と日本小児科医会で協力し、ポケット版「HTLV-1母子感染を防ぐために」を発行し、キャリアマザーが出産からお子さんのフォローアップまでの記録を残せる資材を提供してきた。

### 東京都における産婦人科と小児科の連携

non-endemic areaである東京都では、毎年約80~90名のキャリア妊婦が分娩していると推測され、絶対数ではendemic areaと比べても決して少なくない。しかし、東京都ではHTLV-1母子感染対策協議会が十分に機能しておらず、キャリアマザーから出生した児のフォローアップ体制が確立していない。また母子感染率が不明で、現状では妊婦スクリーニング導入効果について評価が不十分である。

そこで、キャリアマザーのニーズに対応できる相

談支援体制を確立するために、

- ①HTLV-1母子感染については、キャリアマザー相談基幹施設を中心としたネットワークを確立し、相談・支援のみならずフォローアップ体制確立につなげる
- ②キャリアマザー自身の相談施設(日本HTLV-1学会関連疾患診療登録施設など)を明確にするなどを目的にネットワークを作成した。

### HTLV-1母子感染予防東京ネットワーク(図2)

#### 1. 産婦人科医の役割

- ①個々の施設では妊婦健診でキャリアを判定→3カ月ごとに日本産婦人科医会に報告し、キャリア数および背景についての情報を集積する。
  - ・内容：妊婦の年齢、家族内のキャリアの有無、初産・経産、乳汁栄養法
- ②キャリア妊婦に対する指導が可能性な施設(HTLV-1妊産婦指導施設)の一覧表を作成する。
- ③自施設で指導が困難な場合には、HTLV-1妊産婦指導施設に紹介する(場合によっては昭和大学産婦人科への紹介も可とする)。
- ④指導施設では、HTLV-1感染症についての資料の配布やフォローアップ可能な小児科施設一覧、

きやりネット、東京大学医科学研究所病院血液内科受診について説明する。

- ⑤フォローアップ可能小児科施設の受診希望があれば紹介状を作成する。

## 2. 小児科施設の役割

- ①キャリアマザーから出生した児のフォローアップが可能な小児科施設〔HTLV-1フォローアップ施設〕を東京小児科医会公衆衛生委員会の委員を中心に募集し、施設一覧を作成する。

- ②原則として乳幼児健診のスケジュールでフォローアップする(短期母乳が選択されている場合には、生後2~3カ月時点にも対応する)。

- ③3歳以後にインフォームドコンセントを得て抗体検査を実施し、その結果を1年に1回小児科医会に報告し、データを集積する。

・内容:抗体検査の結果、妊娠時の年齢、家族内のキャリアの有無、初産・経産、乳汁栄養法

フォローアップ可能小児科施設には、事前にセミナーなどで、HTLV-1に関する情報を共有する。内容としては、森内<sup>4)</sup>・板橋<sup>5)</sup>の文献、HTLV-1母子感染予防対策マニュアル(平成28年度作成)を参考にす。また、HTLV-1に関する最新の情報を産婦人科医会より入手することはもちろんであるが、各自下記のサイトを参考に情報のアップデートを計る。

- ①HTLV-1情報サービス(<http://www.htlv1joho.org/index.html>)

HTLV-1ウイルスとそれによって起こる可能性がある病気について正しい情報を提供するためのサイト

- ②厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen-shou29/>)

- ③キャリアネット(<https://htlv1carrier.org/>) HTLV-1キャリア登録サイト

また、キャリアマザー相談基幹施設である昭和大学

学病院は、産婦人科および小児科の指導施設に対する研修や、必要に応じてキャリアマザーの指導・出生した児のフォローアップに当たっている。そしてキャリアマザー自身の対応・フォローアップに関しては、希望があれば日本HTLV-1学会関連疾患診療登録施設の東京大学医科学研究所血液内科を紹介する流れとなっている。

## おわりに

日本小児科医会として、全国の小児科開業医を中心に3年間HTLV-1母子感染予防の啓発を実施したが、一般小児科医にとっては希少疾患ゆえに認知度を上げることは困難であった。産婦人科と小児科の連携が綿密に行われている地域がある一方で、東京都のようにHTLV-1母子感染対策協議会が十分に機能していない都市圏では、定点を決めてネットワークをつくり、キャリアネットなどの媒体を通じてキャリアマザーと接点をもつことが、効果的なフォローアップにつながると考えられる。

## 文献

- 1) 峯 真人: HTLV-1母子感染予防に関する日本小児科医会会員へのアンケート調査(2014年). 平成26年度厚生労働科学研究補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「HTLV-1母子感染予防に関する研究: HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究」(研究代表者:板橋家頭夫)総括・分担研究報告書, pp32-39, 2015
- 2) 時田章史: HTLV-1母子感染予防に関する日本小児科医会会員へのアンケート調査(2015年). 平成27年度厚生労働科学研究補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「HTLV-1母子感染予防に関する研究: HTLV-1抗体陽性母体からの出生児のコホート研究」(研究代表者:板橋家頭夫)総括・分担研究報告書, pp37-45, 2016
- 3) 時田章史, 峯 真人, 河村一郎, 他: HTLV-1母子感染対策の現状. 日小児科医会報 53: 94-96, 2017
- 4) 森内浩幸: 母乳とヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-1)感染. 東京小児科医会報 32(3): 14-19, 2014
- 5) 板橋家頭夫: 小児科医としてHTLV-1母子感染にどのように対応すべきか. 日小児会誌 119: 1584-1593, 2015

\* \* \*